

# 県外派遣審判員報告書

作成日 2019年 3月 4日

大会名	第39回全九州中学生バスケットボール春季選手権大会	会場	宮崎県体育館
期間	3月1日(金)～3月3日(日)	報告者	川井 剛(中体連)

## スケジュール

期日	内容	場所
3月1日(金) 19:00～	審判会議	宮崎県体育館
3月2日(土) 9:30～	大会1日目	宮崎県体育館
3月3日(日) 9:30～	大会2日目	宮崎県体育館

## 審判会議の内容

### ○監督会議での伝達事項

○コミッショナー会議での伝達事項(時間が止まっていなくてもコミッショナーの権限でゲームを止めることができる等)

### ○その他(福岡ブロック長より別紙2枚の資料 → 確認)

#### (1)リスペクトと協力関係について(インテグリティ精神)

- ・コーチ、プレーヤー、審判、観衆の皆様の協力によって素晴らしいゲームが行われるよう努力してほしい
- ・バスケットボールの価値向上のために、コーチ・プレーヤーをリスペクトし、チームと協力関係を構築し、よりよいコミュニケーションを図りながら素晴らしいゲームにしてほしい

#### (2)クリーン・ザ・ゲーム(オンコート)

- ・試合中の「暴力暴言根絶」に向けてご協力をお願いします
- ・コーチの振る舞いやプレーヤーの振る舞いについても競技規則にそり判定する。コーチの自チームに対する振る舞いのファウル(暴力暴言)もテクニカルファウル
- ・テクニカルファウルになる前に、ストレスをためるような判定にならないように努めることや、未然に防ぐ方法もPGCで確認してほしい

※なんでもTFをコールしてのみ解決する方法はよくない

- ・テクニカルファウルに当てはまるものには勇気と決断をして冷静にコールしてほしい(OWすることで抑制することも必要)

- ・コーチやプレーヤーとのコミュニケーションをとる(無視しないこと 聞き入れること 短く明確に伝えること)

#### (3)処置のミスはしない(クローワーク TO管理)

- ・チームファウル 個人ファウル FTシューター FT数
- ・タイムアウトの回数
- ・クロック管理(ゲームクロック・ショットクロック) マジックタイム
- ・3or2

- ・審判の笛が鳴った後にブザーが鳴ることがないようにTOコントロール

- ・万が一間違ったときには、競技規則の「処置の訂正」に従って行う

※ルールが不安な方は、今から確認してください。(解答を持って)コートに立つこと

#### (4)クローワーク(3人がクローチーフメンタリティを発揮する)

- ・メカニクス プライマリ(ダブルホイッスル)
- ・チームファウルの合図
- ・声を使ってリードする プレゼンテーション

PGCとポストゲームカンファレンスは主任がいなかった場合は、CCを中心に行ってください。ポストゲームカンファレンスは改善点ばかりでなく、最初にクローとして取り組むことをPGCで決め、できたことは必ず確認しましょう

#### (5)クリーン・バスケット(オフコート:行動規範・インテグリティ)

- ・所属審判長様に報告を忘れないこと
- ・10時以降の飲酒・外出はしない
- ・自分のことは自分で行う。開催県審判委員会にご迷惑をおかけしないように
- ・この大会でさらに、人間力、指導力、組織力を高める場にしてほしい
- ・RefereeDUTYに従い、報告事項は必ず報告をすること

割り当て	3月2日	男子1回戦【 城東 vs 美東 】	CC	相手	本部(宮崎)/米丸(宮崎)
	3月2日	男子2回戦【 五十市 vs 城東 】	CC	相手	鍋島(熊本)/中屋敷(大分)
	3月3日	女子準決勝【 二島 vs 三股 】	CC	相手	仲松(沖縄)/小川(佐賀)

### OPGCO

・チーム情報の共有(パンフレット/各県大会での様子/ゲームレポート/映像)

・審判会議での(2)～(4)に該当する部分の再確認

・各自の苦手なケースや課題の共有

・ヘルプが必要な場面とヘルプをする際の約束事の確認

今回のPGGCは、クロー全員が話せることを目標に臨みました。私が持っている資料の順番通りに進めるのではなく、上記のような順番でお互いに会話をしながら必要に応じてコート図を用いて確認をしたり映像を使って検証したりしました。特に、各自の苦手なケースで共有した部分が実際のゲームの場面で起こり、お互いに意識していたので判定につながった場面もあったので、今後も取り入れたいと思いました。

また、今回は宮崎県の方々が全試合映像を撮ってくださったので、2回戦以降はよりチーム情報を頭に入れて

ゲームに臨むことができました。

#### ○ゲーム中○

- ・ほぼ毎回ラリーの中でアイコンタクトを意識
- ・TO管理(クロック/点数)を常に確認
- ・相手レフェリーの様子も把握
- ・ゲームの流れを感じながら次の展開を予測

ゲームを通して、アイコンタクトをしながらクルーの様子も見ながら進めてきましたが、3人同時に笛が鳴るケースや、ダブルでなるケースもあり、その際のコミュニケーションがスムーズにできなかった場面もありました。コーチやプレイヤーとのコミュニケーションについては、会議で頂いた資料に基づいて、聞き入れることと短く伝えることを意識しましたが、短く伝える経験が足りないと感じました。

判定については、TやCで自分から遠くなるプレイへのコネクト、その際のヘルプDFへの意識がまだ足りないと感じました。オンボールの1on1だけでなく、2人目・3人目をもっと意識していきたいです。

クルーワークについては、初めてお会いする方も含めて、お互いを尊重し合ってゲームに臨めたのではないかと感じています。

#### ○ゲーム後のMTGO

- ・主任がついていなかったの、CCを中心にクルーでMTG
- ・宮崎県の方々が映像を撮ってくださっていたので、1ゲームを通しての振り返り
- ・着替えを済ませ、リラックスした状態で実施

ゲームを1Qから流して見ながら、気になっていたケースや印象に残っている場面をクルーで検証しました。何気ないラリーの中で自分のポジションについてやプレゼンについても、ざっくばらんに意見が出し合えました。判定につなげられなかった場面ではどうしたらよかったのか、何が原因だったのかをクルーで協力して話し合うことができました。

お互いにゲーム中にどのように感じながらそのプレイを見いていたのか、聞いてみないと分からないことがたくさん聞けました。このような形のMTGならではの良さがありました。

#### 全体を通しての感想

今回は3ゲームともCCを担当させていただき、とてもいい経験になりました。各試合に向けての準備や、お互いのことを知り合い信頼関係を作っていく過程がとてもいい勉強になりました。その中で、本大会を通して大きく3点を今回の学びとしてご報告させていただきます。

一つ目は、クルー間のコミュニケーションや信頼関係についてです。夏の九州中学の際に自分に足りなかった部分でしたので、今回は一番の課題にしていました。PGCで話すこと、クルーに話してもらいたいことを一生懸命考えました。またゲーム中も、クルーの様子を把握することにも努めました。クルー全員が持てる力を出し切ることができるようなクルー間の関係作りは、これからもテーマとして取り組んでいきたいですし、県内でも広めていきたいです。

二つ目は、コーチとのコミュニケーションです。ゲーム中のコーチの反応に今までは内心ビクビクしている自分もいましたが、会議で出されたように耳を傾け、短く明確に伝えようと意識しました。実際にはまだまだ不十分なので、コミュニケーションノートを今後も追記していきたいです。

三つ目は、大会運営における協力体制についてです。今回の大会では、宮崎県の方々が全試合撮影をしてくださいました。審判のない方々、他のカテゴリーの方々が協力してくださり実現したとのことでした。おかげさまで、映像を1試合全部映像で振り返ることができたり、次のゲームに備えることができたりしました。今回だけではなく毎回感じていることですが、開催県の方々のお心遣いと配慮に頭が下がると同時に、福岡ブロック長が常々おっしゃっているように、「自分のことは自分で行う」意識はやはり大事だと感じました。

最後に、このような機会を与えて下さった県審判委員会や、運営等さまざまな場面でお世話を下さった宮崎県審判部の方々に感謝申し上げ、第39回全九州中学生バスケットボール春季選手権大会の報告といたします。